

2020(令和2)年4月21日

現在日本国内全土に緊急非常事態宣言がなされており、やむを得ず臨時休業継続中であり、新入生の皆さんとは「入学説明会」以来、ガイダンスも授業も実施できていない状態です。各自にはすでに課題が送付されて早速取り組んでいると思いますが、本校のHP上にこの「学年通信第2号」を掲載し、学校再開時に向けての一助としたいのです。

## 1. 選ばれるだけの理由を持つ人になる (入学説明会・学年主任の話より)

高校生活では近い将来、実社会で通用する資質や力を身に付けていかねばなりません。学業はもちろん最重要ですが、同時に十分な能力と可能性を備えた人物(人材)を社会に送り出すという使命を学校は担っています。

皆さんはこれから自分の目指す(あるいは選んだ)道を進んで行かねばなりません。必然的に試験や面接を受けたり、特定の資格が求められるでしょう。その際、試験の点数や資格以上に、「プラス $\alpha$ となる、人としての魅力」があれば、有利になると思いませんか？それが「選ばれるだけの理由」なのです。

繰り返しますが、学業は本当に大切です。しかし卒業後の現実世界で一個人としてそれなりの仕事で成功し、信頼と敬意を得られるかはまた別の問題です。言い換えますと、“勉強ができた”だけでは通用しないことがあり、いくらか苦手分野があってもその後の努力で満足のいく生き方ができることもある、ということです。

では宝塚高校第58回生として、あなたの「選ばれるだけの理由」は何ですか？答えは各自で違ってよいのです。今すぐ言えなくとも、日常のあらゆる場面で人格の向上に努め、資質を高め、内面から普通に生じる本当の魅力を発揮するよう、心がけてください。

先生と生徒というだけの関係ではなく、人として信頼と敬意を抱いて付き合っていきたいのです。是非とも応じてください。

## 2. 高校生活は面白おかしいものではない だがしかし

マンガはマンガ、現実には現実です。高校生活は日々エキサイティングでワクワクすることばかり…ではありません。学習内容は高度化・深化し、今までの勉強方法では対応できないかも、それでも粘り強く継続して学びます。新たな人間関係も築かねばなりませんし、服装や身だしなみの規定、本校ならではのルールもあります。そして文化祭や体育大会、修学旅行などの行事にも力を合わせて取り組まねばなりません。進級・卒業するためには何も努力せずに済むことは決してないのです。

こう言うとしんどい気持ちになりますか？ただでさえ新入生ならではの不安(と期待)でいっぱいなのに…ですが、一流のスポーツ選手を想像してみましょう。その人たちに優れた才能があるのはもちろん、日々トレーニングを続けているからこそ素晴らしいプレイができるのであり、そのようにして一流であり続けるのではないのでしょうか。それと同じように、学習や生活で取り組むべきこと、その一つ一つがあなた方を磨くトレーニングなのです。ですから、高校生活とは学習と社会訓練の日々だと割り切って考えましょう。そのように努力を重ねるうち、小さな成功と達成感のかけらがつながり始め、あるときふと振り返れば大きな美しい絵が見え始めている(自分が成長している)ことを実感できるでしょう。これが高校生活を成功させるカギなのです。「今日はこんなしんどいことがあったが、反省してよくわかった。でも少し頑張ったらこんなこともできた。自分OK、明日もOK」と自分に言い聞かせてよいのです。

言うまでもなく、新しい出会いは大切にしてもらいたいですね。初めはお互いをよく知らないので不安でしょ

うが、早くクラスメイトや先生たちの顔と名前を覚えましょう。今一度、先入観を捨てて明るく気持ちの良い挨拶をすることが信頼関係の一步となるのです。悪口を言わず、その人の良いところに注目し、励まし、感謝し、大切にするようにして良好な人間関係を築いてください。

## 宝塚高校第 58 回生として適度なプライドを抱く

私・学年主任丸岡が日本国内あらゆる地域を訪ねたうえでの経験上、やはり「宝塚市」の知名度は全国的に高いようです。その宝塚市内公立高校の元祖 … 58 年の伝統ある宝塚高校 … 方角名を示すトッピングのない純粹の校名 … 冬は寒いが自然(雑木林ですが)に恵まれ … 学習環境も空気も良い(新型コロナウイルスに警戒)… 結構、いいもんだよ！と勝手に思っています。

そんな本校の第 58 回新入生諸君！適度なプライドがあってもいいじゃないか？確かに問題点もあるし、旧帝国大学や医学部、有名私立大に多数合格者を輩出！という高校ではないかもしれないが、それはそれとして、完全無欠で何ら問題もない高校なんてあるわけないのだ。本校独自の良さにも目を向けていただきたい。見方によってはきっと幾つかは見つかるはずです。

言うまでもなく、この適度なプライドというのは決して他者と比較して自分の方が優れている理由付けをする態度(誇り高ぶること)ではありません。むしろ、まず自分はこの高校に通う生徒であり、この社会的立場を大切にしているので、親に感謝しておりいつでもどこでも良識と分別ある言動を示せる。卑屈になる理由もないが、その分謙虚に人格向上に努め、学習面でも頑張っている。自分も他人も大切にしているので、ある程度以上周囲から信頼され応じているという自覚(自己肯定感または自尊感情)を抱いている状態です。難しいことではありませんね。では具体的にはどのように表現したらよいのか？今回は 3 点挙げます。

### ①常時正装の積極的推進：

「式典時だけブレザー&ネクタイ着用」は反則ではないのですが、その時だけ外見をよくすればそれでいいのだという態度以外の何物でもありません。58 回生では「プラスαの心がけ」として、普段から自発的に正装(より良く整えられた服装)することを積極的に推奨・推進します。正装であるならそもそも本質的に格好イイですし、自尊感情を自覚できます。そして正装である方が誠実さと真剣さが相手に伝わりやすく、逆に敬意と信頼を勝ち得やすくなります。登下校の際、地域の人々はあなたに注目しています。「最近の県宝生は外見も向上して、良くなったよ」と校内外に発信しようではありませんか。

### ②時間と約束を守る：

人として信頼されるための必須条件です。もちろん皆不完全なので失敗するものですが、できる人は失敗から謙虚に学び反省し、失敗を繰り返すものかと決意する、そこから違いが生まれるのです。遅刻せず登校・出席し、提出物は確実に提出する。ルールを守る内面的強さや公共的道德心は大いに望ましいです。

### ③学業に努力する：

たとえ苦手分野であっても、それだけで諦めてはなりません。確かに向き・不向きや個性に左右されることがあるにしても、授業中に寝る・授業に集中できない・ノートや提出物を出さない、などは論外です。逆に得意であるなら、自分が先生ならこの箇所をどのように教えるかと考えながら授業に臨むのはどうですか。答えがわかるというならその理由を常に説明できることを目指してください。小テストで合格点が 20 点満点の 15 点以上というのであれば、15 点を目指すのではなく 20 点を目指す。英単語なら教科書以外に見聞きした語句にも注意を向ける、そのちょっとした「プラスαの努力」ができるだろうか。

それでは、授業再開時まで安全にお過ごしください。